

メールアドレス tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

HP <http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/>

王寺町・明神山---大阪側も奈良側も好展望

7月8日天気予報は雨だったが、朝から雨は降らず、空も明るくなってきたので、山歩きに出かけた。

近鉄大阪線関屋駅から、北に向かって歩き、西名阪道路をくぐって左折し、西名阪沿いに西に歩く。

府県境をたどる縦走路

10:30 西名阪道路のトンネル口が見えると、右折する道路から離れて山の中に入って行く。灌木林の中の道は水が流れているが、苦になるほどではない。

すぐに送電用鉄柱を回り込んで、まもなく稜線に出る。稜線には府県境に沿って縦走路が走っている。そしてこの道は送電線巡視路でもあるのだろう。関電作業用の赤い標識が要所、要所に設置されている。



↑ 関屋地蔵尊



古代からの峠越え道

道は台地状の稜線を北にすすみ、やがて北東に曲がって関屋地蔵尊の社や十三重の塔などを経て、標高275mの明神山に12:30到着。

この道は古代から、斑鳩と河内飛鳥とを結ぶ交通路だったようで、現在の柏原市国府から送迎(ひるめ)峠越えで王寺町、大和中央部に出、「堺より魚類輸送ルートとして」また「明治初め頃まで伊勢参り」「大和巡りの人々でにぎわっていた」(日本地名大辞典)そうだ。

米相場の旗振山だった明神山

この日は昼前に猛烈な雷雨に会い、頂上でゆっくりできなかつたが、以前に来た時には奈良側も、大阪側も展望が広がっていた。今はそれぞれの方向に「展望デッキ」が設けられており、その眺望は抜群と言える。そして「この山が米相場伝達の旗振り山だった」ことが案内板に書かれていた。

米相場伝達に活躍した旗振り通信

江戸時代、大阪は「天下の台所」と呼ばれ、全国から「年貢米」が集まり、取引された。堂島米会所での相場は全国の米価のみならず、諸物価の基準ともされたので、その動向のいち早い掌握は莫大な利益をもたらした。

そのため相場の伝達は米飛脚、早馬など様々な方法で伝えられた。

なかでも各地をつなぐ「旗振り通信」が盛んにおこなわれた。大坂～江戸間が早飛脚で4～5日かかったのに比べ、旗振り通信では半日で届いたと言う。

幕府は「飛脚制度維持」のため、旗振り通信を時に禁止したりしたが、明治政府は公認し、電話が全国的に普及する大正7年まで、旗振り通信は続いた。(「堂島米相場伝達合戦」等から)

厚遇された遠見人



↓ オニユリ

明神山は堂島と奈良市場とを結ぶ旗振り山だったと思われるが、その間に中継点があったかどうかは不詳。また、暗峠(くらがりとうげ)にも旗振り山の話があるが、こちらも未確認。

通常、旗振り山には遠見人と旗振り人がセットで働いたが、特に視力の優れた遠見人は厚遇されたと言う。

時代小説作家・澤田ふじ子の短編「遠見の砦」(「木戸の橋」所収)は、大坂大山崎・天王山の遠見人がその優れた視力をもつ目を、仲間によって潰される事件を題材にしている。

山頂からの道にオニユリ

この日の山歩きでは花は少なかったが、各所でリョウブが白い花を咲かせ、王寺の住宅地に下る道では、二株のオニユリがひととき目立っていた。



続・二上山に咲く花々

アケビ(木通)

アケビ科アケビ属

写真は 故・澤木仁さん

このシリーズの「続・二上山に咲く花々」の④でミツバアケビを紹介し、和名の由来も書きましたが、本種も大きな花が雌花、固まって咲く小さなのが雄花です。

4月に新芽と共に開花し、強い芳香を漂わせます。秋になる実は10cmほどの楕円球になり、皮は薄紫で独特の魅力を持ち、中の果実は甘くて美味しい。

続・二上山に咲く花々

タツナミソウ(立浪草)

シソ科タツナミソウ属

写真は 故・澤木仁さん

花期は5月～6月

登山道の路傍、林の縁などに小さな群れをつくって花を咲かせます。

地下茎から茎が立ち上がり、20～40cmに伸びて穂状に多数の花を同じ方向に咲かせ、その姿が打ち寄せる波頭の紋様に見えるところからの命名。この花が目につくようになると山は初夏から夏へと移っていきます。



食糧応援へのご協力ありがとうございました。

7月11日に新日本婦人の会高田支部などが行った「食糧応援」には多くの人々が集まりました。改めてご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

健生会が「いのち、くらしなんでも相談所」を設置

社会医療法人健生会が表記の「相談所」を設置しました。電話は0120-930-246、月～金10時～16時